

民生委員・児童委員は子育て応援団です

ひとりで悩まずに相談してください

子育てサロンのご紹介

民生委員・児童委員や主任児童委員が主催する子育て支援サロンがあります。主に未就学児のちびっ子と子育てに頑張っている、パパやママの憩いの場として、又、親同士の交流の場として開催しています。



流山市生涯学習センター
流山市中110
☎04-7150-7474



名都借福祉会館
流山市名都借274
☎04-7144-5510



ほっとプラザ下花輪
流山市下花輪227
☎04-7150-4126



家族の絆



中学生の部 最優秀賞 八木中学校 3年 芝垣 晴生



小学生の部 最優秀賞 流山小学校 5年 高橋 翠

児童虐待防止推進月間
令和4年度



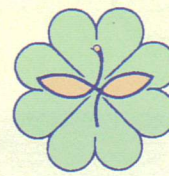
児童虐待の早期発見に向けて
11月の児童虐待防止月間

流山市民生委員児童委員協議会では市内の小中学校から、児童虐待防止推進標語を募集し、最優秀作品を掲載したポスターやクリアファイルを作成・配布して啓発活動を行っています。今年度は西初石中学校区が担当し、小学校17校1628点、中学校10校2495点のたくさんの応募から選出されました。

編集：流山市民生委員児童委員協議会広報部 問い合わせ先 事務局 04(7159)4735

2022年11月1日

第25号



民児協

みんじきょう流山

発行 流山市民生委員児童委員協議会 会長 寺谷直恭

支え合う 住みよい社会 地域から



「昔遊び」の様子 市内小学校にて

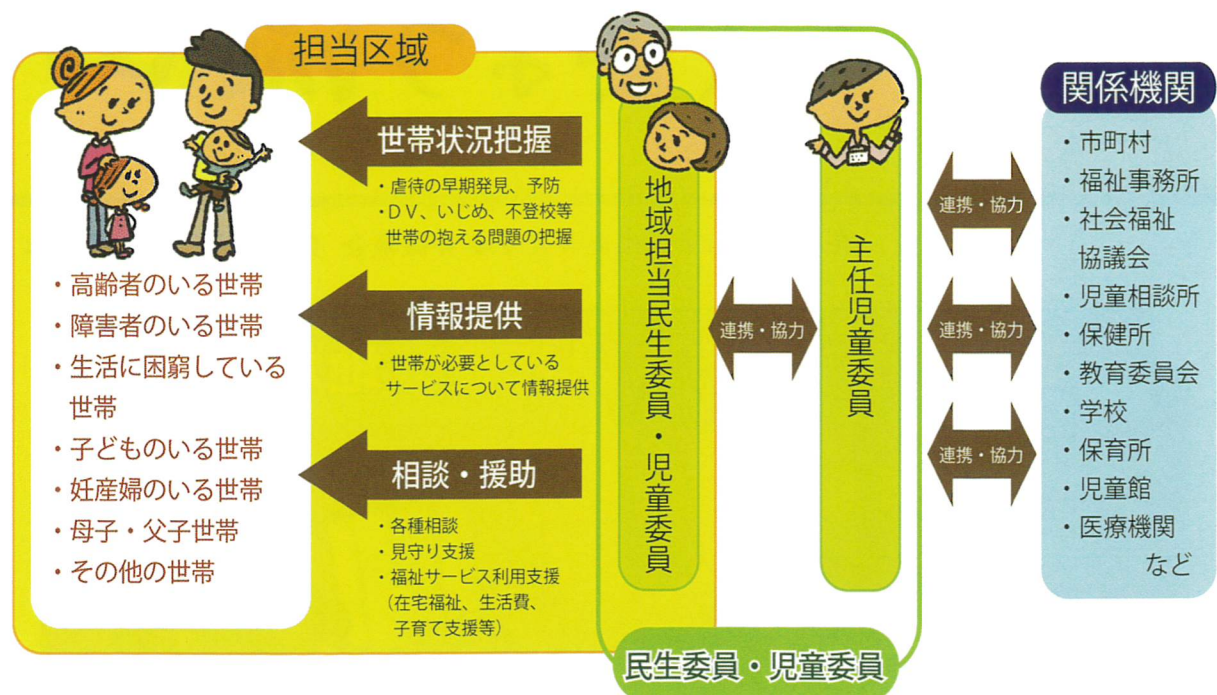
お知らせ

令和4年4月1日おおぐろの森中学校が開校いたしました。この地域は、多数の大型マンション、区画整理地における戸建て住宅建設の集中、商業地域に住居系マンション等が建設中です。全国的に少子高齢化が進展する中、本市では共働きの子育て世帯を中心に人口が増加しています。これに伴い、児童生徒数が急増し学校の新設を含む、教育環境の整備が喫緊の課題です。

流山市民生委員児童委員協議会においては「おおたかの森・おおぐろの森中学校区」が令和4年12月よりスタート致します。



民生委員・児童委員、主任児童委員の活動について



民生委員・児童委員、主任児童委員は地域の身近な相談相手です。相談内容に応じて必要な支援が受けられるよう関係機関につながります。

特集

今回は仕事をしながら、子育てしながら頑張る若い民生委員・児童委員の声をお届けします。自らも地域住民の一員として、ひとり暮らしの高齢者等の訪問や見守り、子供たちへの声掛けを行っています。「地域のお役に立ちたい」が原動力です。

Q：民生委員・児童委員になったきっかけは？

自治会の役員やPTAの役員をやっていて、そこでのご縁から声掛けいただいた。

前任の方がご近所の顔見知りで、お世話になっていたのでお引き受けした。

以前、保育士の勉強の中で社会福祉を学び、地域の活動として「民生委員・児童委員」の存在を知った。自分からやってみたくて市役所に行った。

自治会、PTAの活動の中でお声掛けいただいた。サラリーマンから独立して、自分が住んでいる地域に求められる活動がしたいと思った。



眞壁 基子 (北部地区) 中三女の子のママ

自治会やPTAの活動をされていた方が多いのですね！その延長線で民生委員・児童委員をお引き受け下さった・・・行動力ある若い方が参加して下さるのは心強いです！

Q：引き受けた時の思いは？

主人が単身赴任中に震災にあい、地域のつながりの中で子供を守りたいと思った。

やはり震災の体験が大きく「おやじの会」を立ち上げた。ボランティア活動で、男手が集まりやすいから。民生委員・児童委員を引き受けて、「おやじの会」として活動の幅が広がった。



豊田 ゆずり (おおたかの森地区) 会社員・5歳男の子のママ

転入者の多い新しい地域で、実家も遠く、災害時を思うと地域のつながりが無いと怖いと思った。子供のためにも地域とつながりたい。

災害時の備えと地域のつながりは本当に大切。親として子供を守る力強さを感じますよね！地域とのつながりをより強く意識されていると感じます。

Q：どう活動している？

コロナ禍の活動だったので、訪問を控えお手紙やチラシを投かんした。

活動も3年目になり、相談を持ちかけられた時に色々な方からアドバイスももらって関係機関につなげることができ、解決への糸口が見え、良かったなとやりがいを感じた。

新しい街の子育て世代として児童も見守りたい。こども食堂を立ち上げ、地域の交流を図っている。

仕事や子育てをしながらも、民生委員・児童委員の活動を積極的に頑張ってくださいね。



宮本 修 (西初石地区) 自営・3児のパパ

先輩民生委員・児童委員からのメッセージ

今、私が民生委員を引き受けた三十年前を思い出しています。不安だらけの日々でしたが、先輩のアドバイスや各種研修に支えられ活動することができました。

近年、子育てをしながら委員を引き受けて下さる若い世代の方が増えつつあります。世間では未だに民生委員は子育ても終わり、時間に余裕のある者が携わるといった観念が広く浸透しています。若い方が地域で活躍することで、年齢を問わず誰でもできるものとして捉えてもらえるのではないのでしょうか。

私は次世代の方に、先人達が築き上げてきた参考にすべき点と若い方の知恵をうまく融合させて、新しい民生委員活動を作り上げて欲しいと思っています。



流山市民生委員児童委員協議会 副会長 塩谷 節子